
当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。無断引用や転載をお断りいたします。
Copyrighted materials of the authors. Works in progress: Please do not circulate or cite
without permission.

2022 年度第 1 回研究会（通算第 1 回目）

日時：2022 年 5 月 29 日（日）13:00–16:00

場所：オンライン会議室

1. 参加者の自己紹介
2. 熊切拓（東京大学大学院人文社会系研究科）
語りの構造化とアラビア語チュニス方言の動詞構文の語順
3. このプロジェクトで扱う内容に関する議論

以下に熊切拓氏による発表報告を付す。

=====
語りの構造化とアラビア語チュニス方言の動詞構文の語順
Narrative Structure and Word Order of Verbal Sentences in Tunis Arabic

発表者：熊切拓（東京大学大学院人文社会系研究科研究員）

発表題目「語りの構造化とアラビア語チュニス方言の動詞構文の語順」

物語内容の効果的な伝達のためには、場面転換を行ったり、場面の主役を提示したり、事態の関係を明示する適切な「語りの構造化」が重要である。本発表では、アラビア語チュニス方言の物語における 3 種の動詞構文を分析することにより、それぞれが「語りの構造化」において果たす機能を検討した。

3 種の動詞構文とは、動詞（V）-主語（S）の語順となる V S 構文、S が主題化され動詞の前に現れる S V 構文、動詞の活用形が主語に一致するのみで S が現れない V 構文である。

発表においては、V S 構文が、場面の「主役」を設定し、新たな場面を開始するという場面転換によって語りを構造化すること、いっぽう、S V 構文は、場面における事態の関係を示すという点で語りを構造化すること、そして、V 構文は場面における事態の展開を担い、所与の語りの構造を保つ機能をもつことを述べた。

発表後の討論においては、建設的なコメントを多くいただいた。テーマとなる V S 構文については、これが *thetic* な特徴をもつとすれば、従属節にもあらわれうるのかという質問や、自動詞の例と他動詞の例を区別すべきという指摘があった。また、S V 構文の機能に

については、対比的主題という観点から捉えるべきではという提案があった。さらに、V S構文の定形性、ナラティブにおける代名詞の使用がもつ効果、場面そのものの定形性、場所句・時間句の役割などに関する指摘もあり、今後、ナラティブを多面的かつ精密に観察する上で有益な示唆をいただいた。